

指導改善資料2023

毎日の授業の中で

こんな **疑問・悩み** はありませんか？

この指導改善資料が **解決** します！

国語

- 「情報」の指導って、国語でもやらなきゃいけないの？
- 学習前と学習後の感想があまり変わらないなあ。



- ・指導改善ポイント P.1~P.2
- ・アイデア例 P.7~P.9

算数・数学

- いつも同じ時間配分の授業でよいのかな？
- 子どもの考えが深まっていかないなあ。



- ・指導改善ポイント P.3-P.4
- ・アイデア例 P.10-P.12

英語

- 「聞くこと」「読むこと」の指導はいつも同じでよいのかな？
- 何となく内容が伝わっているだけでよいのかなあ。

- ・指導改善ポイント P.5-P.6
- ・アイデア例 P.13-P.16

児童生徒質問紙

- どんなふうに変化の分析をすればよいのかな？
- 質問紙にはどんな意味があるのかなあ。

・P.17-P.20



指導改善資料のポイントが
一目でわかる「概要版」も
ぜひ参考に！



国語

指導改善ポイント①

「情報」の指導って、国語でもやらなきゃいけないの？

国語の授業で「情報と情報との関係」・「情報の整理」をどう指導すればいいの？

もやっと

こんな悩みはありませんか？

〔知識及び技能〕に(2)「情報の扱い方に関する事項」があるのは知っています。その中に、「情報と情報との関係」「情報の整理」という内容がありますね。



教科書にも「情報」の学習がありますが、何をどう指導するのかよく分かっていません。

「情報と情報との関係」や「情報の整理」は、子どもたちが、具体的に何ができるようになればいいのか？



「『話すこと・聞くこと』や『書くこと』『読むこと』を通して指導する」と言われるけれど、どうしたらいいの？

指導の仕方を知りたいなあ。



すっきり

このような解決方法があります！

国語で指導する「情報」(情報の扱い方に関する事項)の内容

「情報と情報との関係を理解する」とは、様々な情報(文章・図表など)の中から、情報と情報との関係を見だし、印を付けたり矢印でつないだりして、結び付けて理解することです。

「情報と情報との関係」とは、「事柄の順序」、「共通と相違」、「全体と中心」、「考えと理由」、「原因と結果」、「主張と事例」などの関係です。

「情報の整理」とは、情報(文章・図表など)から必要な情報を取り出したり、活用したりするための整理の仕方を理解し使うことです。

「整理の仕方」とは、情報を比較、分類、関係付けて図示したり、複数の語句を丸や四角で囲んだり、線でつないだりすることなどです。

引用の仕方、出典の示し方、辞書や辞典の使い方を理解し、使えるよう指導することも「情報の整理」に含まれます。

「情報の扱い方に関する事項」はこう指導する！



「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の学習を通して身に付ける必要がある場合は、教科書の「見通しをもつ(小学校)」「目標(中学校)」にも示されています。その学習(単元)に取り掛かる前にここで学ぶ情報の関係性や整理の仕方を確かめておきましょう。

➡P.7「アイディア例①」 P.9「アイディア例③」へ
(書くこと) (読むこと)

すっきり の指導がよい理由

令和5年度全国学力・学習状況調査で課題が見られた設問

| | | | | | | |
|-----|--------|---|----------------------------------|----------|---------|------|
| 小学校 | 2 三 | 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。 | 正答率 | 全国 62.0% | 県 58.9% | 自校 % |
| | | | (■解説資料 P.21~P.30 ■報告書 P.36~P.53) | | | |
| 中学校 | 1 二 | 意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。 | 正答率 | 全国 65.1% | 県 64.2% | 自校 % |
| | | | (■解説資料 P.10~P.14 ■報告書 P.19~P.31) | | | |

話や文章に含まれている情報を取り出して正確に理解する力、情報を整理して適切に表現する力を育てることにつながるからです。

例えば、第5学年「想像力のスイッチを入れよう」の学習では、「事例」と「筆者の意見」が書かれているところに線を引いたり、表にまとめたりする場を設定して、関係を捉えられるようにしましょう。

「読むこと」の授業の「まとめの学習」では どんなことに気を付けて指導すればいいの？

もやっと

こんな悩みはありませんか？



学習（単元）の最後に、教科書の「まとめよう（小学校）」「考えをもつ（中学校）」に沿って、自分の考えをまとめる時間を設定しています。

学習（単元）の最後に「まとめ」を書くことが、指導事項の「考えの形成」の力を身に付けることだと思っているけれど、本当に力が付いているのかな…。
どの子も、似たような文章になってしまうのはどうしてだろう。



学習の初めに書いた感想と学習の終わりに書く感想やまとめを比べると、変容が見られないことが多いなあ。
何が足りないのかな？

すっきり

このような解決方法があります！

「どんなことについてどのようにまとめるのか」という「学習課題」や「目的」を確かめると、「書きまとめ方」を示すことが大切です。

学習（単元）のまとめで、感想を書いたり考えをまとめたりする際には、「どんなことについて考えるのか」「どのようにまとめるのか」が分かるよう、「例」を示すと効果的に指導できます。

「読むこと」の「考えの形成」は こう指導する！



文章を読んで理解したこと、自分が知っていることや体験などを結び付けて自分の考えをまとめ、話したり書いたりするよう、指導します。

→P.8 授業アイデア例②へ 中学校も適用可能

例 「考えの形成」の学習に向けて、こんな学習が効果的です！

| 第1時 | 第2時 | 第3時 | 第4時 | 第5時 | 第6時 | 第7時 |
|----------|-----|-------|-----|-----|-------|-----|
| 内容と構造の把握 | | 精査・解釈 | | | 考えの形成 | |

第2時～第6時の指導において

- ① 読む目的を意識することを促しましょう。
- ② 本時の学習で理解したことの中に、自分が既にもっている知識や実際の経験と結び付くことはないかを考えながら読むことを指導しましょう。毎時間の蓄積が「考えを形成」する学習につながります。

すっきり の指導がよい理由

令和5年度全国学力・学習状況調査で課題が見られた設問

| | | | | | | |
|-----|----|--|------------------------------------|----------|---------|------|
| 小学校 | 2四 | 文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。 | 正答率 | 全国 56.2% | 県 53.3% | 自校 % |
| | | | (■解説資料 P. 28～P.30 ■報告書 P. 44～P.53) | | | |
| 中学校 | 2四 | 文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる。 | 正答率 | 全国 67.5% | 県 71.3% | 自校 % |
| | | | (■解説資料 P. 22～P.24 ■報告書 P. 38～P.46) | | | |

「考えの形成」は、文章を読んで理解したことや分かったことを指すのではなく、**文章を読んで理解したことに基いて、さらに自分の考えを深めることを求めているから**です。

例えば、第5学年の「想像力のスイッチを入れよう」の学習では、「文章を読んで共感したことや疑問に思ったことを基に、その中から自分の知っていることや経験と結び付くことを考え、これから自分がやりたいことをまとめる」のように示しましょう。その後、机間指導を行うなど、個別に声掛けをするとよいです。

算数でも数学でも大切！

いつも同じ時間配分の授業でよいのかな？

算数・数学の授業には、どのような学習の進め方があるの？

もやっと

こんな悩みはありませんか？

どの時間も同じ時間配分で指導

しようとするけど、いつも時間が足りない…。

いつも決まった時間配分で授業することが大切だと思いますが…。



| | |
|-------------------------|-----|
| 素材提示 ↓ 課題化 | 10分 |
| ↓ 個人追究 ↓ | 10分 |
| 交 ↓ 流 ↓ まとめ | 15分 |
| 評価問題 | 10分 |

私も同じです。でも、終末に習熟の時間を多く取ったり、発展的に考えたりしようとする、どうしても時間が足りなくなるときがありますよね…。



そうですね…。交流を多く位置付けたり、子どもから考えを出そうとしたりすると、どんどん時間が延びていってます…。



だからといって、「教えてばかり」はよくないと思うのですが…。一人一人が主体的に学べるようにするには、指導方法や時間配分をどう工夫したらいいの…。



すっきり

このような解決方法があります！

単元全体を見て、各時間の **ねらいに応じて展開や時間配分を工夫** してみましょう！

単元の流れ（例）

- 第1時
- 第2時
- 第3時
- 第4時
- 第5時
- 第6時
- 第7時
- 第8時
- 第9時



ポイント 習熟の時間確保と問題の工夫
単元のはじめなどには、理解することや習熟することに重点を置くべき時間もあります！ →P.10「アイディア例①」

ポイント あえて教師が考え方を提示
教科書に載っている考えが、子どもから出てこないときは、教師が提示し、その考え方について学ぶことも必要です！ →P.11「アイディア例②」へ

ポイント 導入を短縮、追究の時間を確保
単元最後の時間では、学習したことを最大限に活用して学べる素材・時間が必要です！ →P.12「アイディア例③」へ

すっきり の指導がよい理由

令和5年度全国学力・学習状況調査で課題がみられた設問

| 学年 | 設問 | 内容 | 正答率 | 全国 | 県 | 自校 |
|-----|------|---|-----|----------------------------------|-------|----|
| 小学校 | 4(1) | 百分率で表された割合について理解している。 | | 46.0% | 44.3% | % |
| | | | | (■解説資料 P.55~P.57 ■報告書 P.81~P.83) | | |
| 中学校 | 6(3) | 結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することができる。 | | 40.9% | 42.7% | % |
| | | | | (■解説資料 P.28~P.30 ■報告書 P.38~P.43) | | |

- ➔「**習熟が大切な時間**」に、教師が評価問題を段階的に提示したり、定着度に応じた問題を用意したりすることで、子どもは「きまり」や「手順」等、「基本的な学習内容を確実に定着」することができるからです。
- ➔「**考え方の交流が大切な時間**」に、教師が全体交流の時間を確保するなど展開を工夫することで、子どもは、説明・議論する機会が増え、「自分の言葉で表現する」ことができるようになるからです。

併せて大切な指導：「待つ」から「動く」への転換

◆つまずいている子が「止まる・待つ」姿から「**動き出す**」姿へ

◆課題解決できた子を「待たせる」指導から「**伸ばす**」指導へ

- ➔前に集めて、先生と一緒に考える。
「あっ!分かった」と笑顔で自分の席へ
- ➔教科書やノートを自由に見られるようにする。
「習った中で使えそうな考えはないかな」
- ➔早くできた子には、気付きを促す。
「他の考え方でできる? いつでもいえる?」

算数・数学

指導改善ポイント②

算数でも数学でも大切！

子どもの考えが深まっていかないなあ…。

「答えが出たら満足」している子どもが、さらに考えを進められるようにするにはどうしたらいいの？

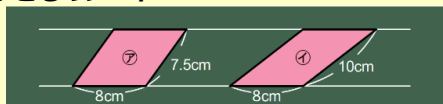
もやっと

こんな悩みはありませんか？

子どもたちが、もう少し自分で深く考えるようになってほしいのだけれど…。

【問題】
アとイの面積は等しいと言えるでしょうか？

子どものノート



平行線なので、アとイの面積は等しい。

よし！できた。(答えが出て満足)

個人追究時



もやっと

答えは出せたと思っているから、高さのことに気付いていないなあ。



全体交流時



僕は、平行線だから、面積も等しくなると思います。

分かりました。



もやっと

根拠の曖昧さに気付かせたいけど、考えが深まっていかないなあ。

すっきり

このような解決方法があります！

子どもは、次のような**思考を進める視点**に**気付いていない**のかも。まずは教師が手本を示し、徐々に子どもができるように。

根拠

どうして

平行線だと、面積が等しくなるの？

解釈

「高さが等しい」って、図で言うとどういうこと？

統合

ようするに

面積が等しくなるときは、どういうとき？

発展

他の図形でも

同じように考えていくことはできる？



そういう考えはしてなかったな。よし！挑戦してみよう！！

➡このことについては、報告書（算数 P.47～57、数学 P.51～52 等）にも詳細が示されています。ぜひ御覧ください。

すっきり の指導がよい理由

令和5年度全国学力・学習状況調査で課題がみられた設問

| 学年 | 設問 | 内容 | 正答率 | 全国 | 県 | 自校 |
|-----|------|--|-----|----------------------------------|-------|----|
| 小学校 | 2(4) | 高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できる。 | | 20.8% | 21.4% | % |
| | | | | (■解説資料 P.32～P.37 ■報告書 P.47～P.57) | | |
| 中学校 | 3 | 空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解している。 | | 30.4% | 29.8% | % |
| | | | | (■解説資料 P.15～P.16 ■報告書 P.24～P.26) | | |

➡子どもは、**自分なりに「よい」と思って考えづくり**をしていることが多く、自分の説明や表現の「不十分な点」については気づきにくいことが多いからです。

➡教師が、個人追究で…、交流活動で…、全体交流で…、積極的に次の4つの視点で**随時評価することにより**、子どもの思考を深めることにつながるからです。



➤発問 ☞ 価値付け の例

根拠

- どうして、そう考えようと思ったの？
- どうして、そのように考えられるの？
- 本当？（誤答を示して）～ではないの？
- ☞ 式変形の目的や根拠を考えようとしているね！

解釈

- 式で考えたことは図で言うとういうことなの？
- ～さんの考えは、どういうことかな？
- このことから、他にどんなことが分かるかな？
- ☞ 式と図をつなげて考えようとしているね！

統合

- ようするにどう考えていけばよいの？
- 他の場合でも考察したことから何が言える？
- 以前学習したことと比べてどうですか？
- ☞ 課題に対する結論をまとめようとしているね！

発展

- 他の方法で考えることはできないかな？
- もし～だったら、どうなるだろう？
- 他の場面でも同じように考えられるかな？
- ☞ 他でもできるか、考えようとしているね！

必要な情報、概要や要点を捉える力を効果的に高めるにはどのように指導すればいいの？

もやっと

こんな悩みはありませんか？



教科書のリスニングのページは、英語の音声を繰り返し聞かせて教科書の問題を解かせて、答え合わせをしています。

私も同じです。でも、子どもが「必要な情報を聞き取ることができるようになっていく」という実感がありません。



教科書の本文を読む際には、段落ごとに区切って、内容を捉えるようにしたり、語句の意味を確認したりすることを大切にしています。

私も同じです。でも、このような指導で、子どもに概要や要点を読み取る力が付いているのかどうか自信がありません。



すっきり

このような解決方法があります！

「聞くこと」や「読むこと」の言語活動を行う際には、次の2つのポイントを大切にしましょう。

Point 1

聞き取りを行う前に、目的や自分の置かれた状況を確認して、課題解決のための**キーワードや手がかり**を予測させましょう。

- 何のために聞くのか、自分はどのような状況にいるのかを確認し、キーワードや手がかりを予測することで、子どもはキーワードに着目して聞き取りを行います。
- 聞き取りを行う前に、リスニングのテーマについて先生と子ども、あるいは、子どもたち同士でやり取りすることは、既有知識や背景知識の活性化につながります。

→詳しくはP.13へ！

Point 2

読み取りを行う際には、文と文との関係を正確に読み取らせ、**概要や要点を比較・検討**させましょう。

- 例えば、段落ごとに主な内容を表す英文に線を引くことで、主な内容を表す英文とその具体的な情報を表す英文を区別しながら読むように指導します。
- 例えば、主な内容を表す英文として線を引いた理由を述べ合ったり、概要としてまとめた英文に情報の不足や偏りが無いかを比較・検討したりするよう指導します。

→詳しくはP.14へ！

すっきり の指導がよい理由

令和5年度全国学力・学習状況調査で課題が見られた問題

| | | | | | | |
|------|--|------------------------------------|----------|---------|----|---|
| 3 | 日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができる。 | 正答率 | 全国 41.2% | 県 45.8% | 自校 | % |
| | | (■解説資料 P.19~P.21) (■報告書 P.28~P.33) | | | | |
| 7(2) | 日常的な話題について、短い文章の概要を捉えることができる。 | 正答率 | 全国 34.7% | 県 34.4% | 自校 | % |
| | | (■解説資料 P.30~P.33) (■報告書 P.42~P.48) | | | | |

日常生活では、**目的をもって聞いたり、自分の置かれた状況から判断したりすることが多い**からです。

例えば、店や公共交通機関でアナウンスを聞く際、自分が必要とする情報を中心に聞き、何が述べられているのかを理解しようとしています。聞く際の状況や目的を明示して、どのような情報が必要かを考えさせた上で、その部分を集中して聞き取る活動を繰り返し行いましょう。

概要を捉える際には、例えば「ペアで『5W1H』について質問し合いながら読む」、「図や表にまとめながら読む」、「時を表す語句に着目して読む」、「各段落の最初の1~2文をまず読む」等の活動に取り組むことが考えられます。読む目的に合わせた指導を繰り返し行いましょう。



英語

指導改善ポイント②

何となく内容が伝わっているだけでよいのかなあ…。

正確性や一貫性を高めるためには、どのように指導すればいいの？

もやっと

こんな悩みはありませんか？



ある程度の分量を書かせる指導を大切にしています。でも、まとまりのある文を書くことができるようになっていきません。

(生徒) My school is very nice. I play badminton. It's practice hard. But very interesting. I have many friends. They are kind, interesting and so cute. I am happy every day. [一貫性に弱さ]

子どもが書いた英作文をじっくり添削して返却するようにしていますが、なかなか正確に書けるようになっていきません。



(生徒) Track and field team is very fun. Because we can a lot of friends talking. We can run fast is sports festival. We can enjoy run. Please come to our club. [正確性に弱さ]



小学校段階で、話すことや書くことの正しさをどの程度まで求めたよいのか分かりません。

すっきり

このような解決方法があります！

Point 1

「書くこと」の言語活動を行う際には、次の3つのポイントを大切にしましょう。

文章を書く前に、**誰に対して、何のために書くかを明確にして、書くための「視点」をもつことができるようにすることが大切です。**

○ 例えば、文章を書く前に相手にインタビューして、相手のことがよく分かれば、どのような内容をどのように紹介すればよいか等、書くための視点をもつことができます。

→詳しくは P.15 へ！

Point 2

子ども同士で英文を添削したり、エラーコレクションコードを付けて返却したりして、**子どもが自分の誤りに気付くことができる指導**を行うことが大切です。

○ 子どもに最初から完全な文章を書くことを求めるのではなく、単元を通して、表現内容の適切さや英語使用の正確さについて徐々に改善していくことができるように、子ども自身の気づきを大切にしながら指導をします。

→詳しくは P.15 へ！

Point 3

中学校でより正確に表現する力を高めることができるように、小学校においても正確性につながる指導を行うことが大切です。

○ 例えば、子どもが誤りのある英語を話した時に、その場で訂正して言い直させるのではなく、教師が意図的に正しい表現で応答することで、気づきを促す指導をします。

→詳しくは P.16 へ！

すっきり の指導がよい理由

令和5年度全国学力・学習状況調査で課題が見られた問題

| | | | | | |
|----|---|----------------------------------|----------|---------|------|
| 10 | 日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができる。 | 正答率 | 全国 7.5 % | 県 8.4 % | 自校 % |
| | | (■解説資料 P.46~P.49 ■報告書 P.68~P.72) | | | |

*解答類型反応率の割合(岐阜県) [正確性に弱さ:約 30% 一貫性に弱さ:約 15%]

文章を書く前に書くための「視点」を確認することで、子どもは**相手にとって役に立つ情報を書くことをより意識**するようになるからです。また、教師が子どもの誤りを常に直してフィードバックしては、**自立した学習者を育てることができない**からです。

言語は通常、人との関わりの中で用いられるため、他者を尊重し、相手に配慮しながらコミュニケーションを図ることが求められます。正確性や一貫性を高めることで、読み手に一層伝わりやすい文章になります。

情報と情報との関係付けの仕方や、関係の表し方を指導し、使えるようにしましょう。

小3～6年・中学校でも適用可能

| | |
|-------|--------------|
| 学年・領域 | 第5学年・書くこと |
| 単元 | グラフや表を用いて書こう |
| 実施時期 | 11月頃 |

読むこと：「固有種が教えてくれること」教科書(P.137～)
 情報：調べるときに使う「統計資料の読み方」教科書(P.148)
 書くこと：「グラフや表を用いて書こう」教科書(P.149～)

【学習活動】

1 単元の目標を確認し、前時の学習内容を振り返る。

2 本時の課題と課題達成の姿を確認する。

自分の考えに説得力をもたせる資料を選ぼう。

3 情報を整理するための具体的な手段や「考え」に説得力をもたせる資料の選び方を理解する。

※ 資料と文章との関係を図示して視覚的に捉えることができるようにすることで理解が深まります。

4 各自、自分の考えに説得力をもたせる資料を選ぶ。

5 本時の学習を振り返る。

【学習活動3】において 資料から分かることを整理する

Aさんは「環境」に関わる資料を2つ集めて、資料から分かる事実と、資料を基に考えたことを、それぞれまとめました。気付いたことはありますか。



資料から分かる事実資料から分かる事実に書いたことが資料のどの部分とつながっているのか、青色を使って、丸や四角で囲んだり線でつないだりしています。どの部分のことを説明しているか、ひと目で分かります。



レジ袋を買うか ②

資料から分かる事実

- ・買う人五十五パーセント、買わない人四十五パーセントである。
- ・買う人が買わない人より十パーセント上回っている。

考えたこと

- ・マイバッグやエコバッグを使えば、資源の節約になると思う。

ごみの排出量 ①

資料から分かる事実

- ・二〇〇〇年から二〇二三年にかけて少しずつ減少している。
- ・二十三年間で千トン減っている。

考えたこと

- ・一人一人のごみを減らす努力の積み重ねの成果だと思う。

「資源を大切に」するという点でつながる

Aさんの考えに説得力をもたせるためには、①、②のどちらの資料を選ぶとよいでしょうか。

①、②のうち、Aさんの考えとつながりのある部分を赤色の線をつないで、考えてみましょう。

資料①の「ごみの減少は一人一人の努力の積み重ね」という考えたことと「資源を大切に」してほしいというAさんの考えとは、資料②と比べるとつながりが弱いと思います。

資料②の「資源の節約になる」という考えたことと、「資源を大切に」してほしいというAさんの考えは、つながりがあると思います。

確かに、資料②は、Aさんの考えとつながっているので、説得力が増します。

Aさんの考え

資源を大切に使う、持続可能な社会を目指すべきだと思えます。なぜなら、資源には限りがあるのに、資源を無だづかいしている人が多からずです。

どうしてこの指導が大切なのか

情報と情報とを線でつないだり、印を付けたりして、視覚的に分かりやすく整理することによって、情報と情報との関係性を捉え、目的や自分の考えに合った情報を選ぶ力が身に付くからです。

○小学校報告書「情報の整理の仕方について交流する」P.50～の授業アイデア例もぜひ御覧ください。➔



「どんなことについてどのようにまとめるのか」を示して、考えをまとめる学習を設定しましょう。

小・中全学年で適用可能

| | |
|-------|-----------|
| 学年・領域 | 第3学年・読むこと |
| 単元 | ありの行列 |
| 実施時期 | 1月頃 |

読むこと：「ありの行列」教科書 下(P.95～)

【これまでの学習との関連】

- ・「言葉で遊ぼう・こまを楽しむ」教科書 上(P.58～)
- ・「すがたをかえる大豆」教科書 下(P.49～)

【学習活動】

1 単元の目標を確認し、これまでの学習で読み深めてきたことを確認する。

2 本時の課題と課題達成の姿を確認する。

「ありの行列」や「もっと読もう」を読んで、引き付けられたことや、もっと知りたいこと、考えたことを書こう。

3 「もっと読もう」を読む。

4 「ありの行列」と「もっと読もう」を読んで引き付けられたことや、もっと知りたいと思ったこと、考えたことを書く。

※ 文章を書く前にペアで話す活動を入れることも、考えを明確にする点で有効です。

5 本時の学習を振り返る。

【学習活動4において】「どんなことについてどのようにまとめるのか」を示す



「ありの行列」や「もっと読もう」の文章で引き付けられたことを、文中の言葉を使って詳しく話してみましょう。

「ありの行列」を学習してきて、ありが「とくべつのえきを出すこと」の部分に引き付けられました。液のにおいをかいて歩くことで、行列ができることに驚きました。



Aさん

そのことと、自分の体験や知っていることをつなげて、もっと知りたいことや考えたことを、詳しく書きましょう。



「感想」に書くこと
 ・「ありの行列」や「もっと読もう」を読んで引き付けられたこと。
 ・自分の体験や知っていることとつなげて、もっと知りたいことや考えたこと。

ありました。とあるのか、知りたくなりました。すじが三つにふえたりするこで、列が二列に分かれたり、道きもあると書かれていたのも、いくつかのにおいのあるえきもあると書かれていたのでも、道しるべになるえきの他に、とくべつのえきが、道しるべになつていいるから、まよわずに進めるのだと思いました。

Aさんの感想
 わたしは、「ありの行列」を読んで、「ありがとくべつのえきを出すこと」に引き付けられました。

どうしてこの指導が大切なのか

教師が「どんなことについてどのようにまとめるのか」を示して指導することで、子どもたちの理解したことに対する考えが、一層深まっていくからです。

「学習（単元）のまとめ」との関連

学習のまとめとして文章を書くことはとても大切です。「自分の体験と結び付けて書く」、「もっと知りたいと思ったことを書く」、「印象に残った場面とその理由を書く」、「〇〇字で書く」、「初め・中・終わりで書く」など、何をどう書くのかを具体的に示すことで、「考えを形成」する力を育成します。



中学校国語

授業アイデア例③

板書などを工夫して、情報と情報との関係を視覚的に捉えられるようにしましょう。

小・中全学年で適用可能

| | |
|-------|------------------|
| 学年・領域 | 第2学年・読むこと |
| 単元 | 君は「最後の晚餐」を知っているか |
| 実施時期 | 11月頃 |

情報：思考のレッスン1 具体と抽象 教科書(P.52)
読むこと：「君は『最後の晚餐』を知っているか」
教科書(P.170～)

【学習活動】

1 前時の学習内容をペアで説明し合い、筆者の「最後の晚餐」の見方を振り返る。

2 本時の課題と課題達成の姿を確認する。

文章の構成における工夫を考えよう。

3 「解剖学」「遠近法」「明暗法」の特徴や例示の効果を捉える。

※ 板書を工夫することで、「具体と抽象の関係」を視覚的に捉えることができます。

4 文章の構成の仕方について考える。

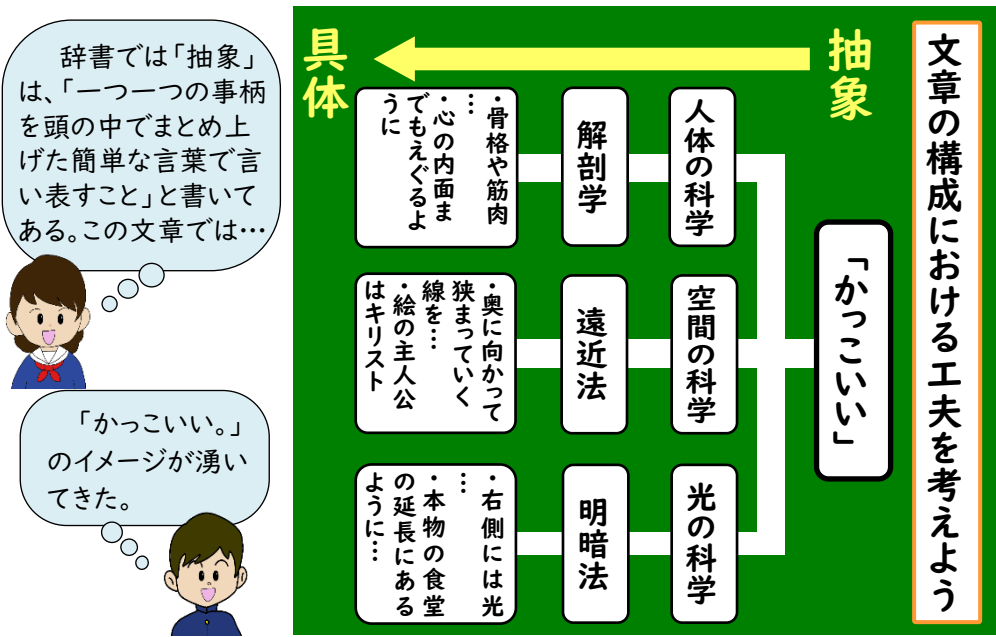
5 筆者が「最後の晚餐」を「カッコいい。」と思った理由とその根拠の示し方についてまとめる。

【学習活動3において】「具体」と「抽象」の関係を黒板に整理する

筆者は、どのような例示(具体)を基に、「最後の晚餐」を「カッコいい。」(抽象)と述べているのだろう。



文章を構造的に捉えることができるように板書を工夫する



【学習活動4において】 発問により、本時の課題に迫る

筆者は、なぜ、このような構成にしたのだろう。



「カッコいい。」という考えに納得できるようにするためだと思います。はじめに「抽象的な表現・印象(=カッコいい。)」を提示し、その上で「具体」を説明することで、筆者が「カッコいい。」と思う理由が一つずつ明らかになっています。その繰り返しの構成があるから、筆者の考えに納得できます。



どうしてこの指導が大切なのか

文章から抜き出した言葉(情報)を観点に沿って比較、分類、関係付けながら整理することで、情報と情報との関係を視覚的に捉えることができ、理解が深まるからです。ICT を活用して情報を整理することも効果的です。

「思考のレッスン1 具体と抽象」の学習を思い起こしながら、「具体」「抽象」という語の意味やその内容(情報)がどう扱われているのかを考えましょう。

○中学校報告書【コラム①】P.24、【コラム③】P.54 の「[知識及び技能]の位置付けの工夫」もぜひ御覧ください。



【コラム①】



【コラム③】

小学校算数

授業アイデア例①

中学校数学でも適用可能


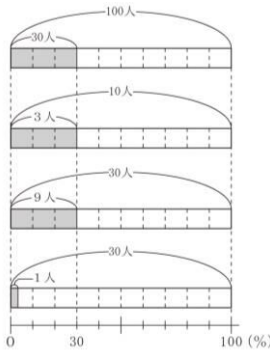
単元の中には、「教えること」や「習熟」が大切な時間もあります。時間配分や展開の仕方を工夫してみましょう。

| | |
|------|---------|
| 学年 | 小学校第5学年 |
| 単元 | 「割合」百分率 |
| 実施時期 | 10月頃 |

第1時 第2時 第3時 第4時 第5時 第6時 第7時 第8時 第9時

単元のはじめなど、学習内容を確実に教えて、習熟できるようにすることが重点となる時間もあります。



| 過程 | 学習活動 |
|----|---|
| 導入 | <p>○問題提示</p> <p>たかしさんが入っている野球チームの人数は20人で、そのうち7人が6年生です。6年生の人数は、チーム全体の人数のどれだけの割合ですか。</p> <p>・式 $7 \div 20 = 0.35 \rightarrow$ 割合は0.35</p> <p>教えること① 用語と表し方を教える。</p> <p>・0.01は1% ・このような割合の表し方を百分率といいます。</p> |
| | <p>○課題 百分率を使って割合を表そう。</p> <p>教えること② 「100とみる」という見方を教える。</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>今までは、もとにする量を1とみていたけど、百分率は100とみているんだね。</p> </div> </div> <p>習熟① 割合の表し方の基本問題(百分率⇔小数)</p> <p>・小数を百分率で表す問題: 0.05は何% 0.1は何% ・百分率を小数で表す問題: 47%を小数で 8%を小数で 等</p> <p>習熟② 百分率の文章問題</p> <p>まみさんは、60ページの本を15ページ読みました。まみさんが読んだページ数は、本全体の何%ですか。</p> <p>・式 $15 \div 60 = 0.25$ 答え 25% 等</p> <p>習熟③ 報告書等を活用し、さらに習熟を図る。</p> <p>○割合が30%のものを全て選びましょう。</p> <p>ア 100人をもとにしたときの30人の割合 イ 10人をもとにしたときの3人の割合 ウ 30人をもとにしたときの9人の割合 エ 30人をもとにしたときの1人の割合</p> <div style="display: flex; align-items: center;">  </div> <p>もとにする量がそろっていない複数の事象について考えることを通して、「割合が30%」の意味を確実に押さえます。</p> |
| 展開 | |
| 終末 | |

教科書の文言で「～と書きます」「～といひます」のような記載がある場合など、**用語や表し方について学習する時間**の提案です。

【教える際に留意したいこと】

- ・ 教師が一方向的に説明するだけ。
- ・ 板書をノートに写すように指示するだけ。
- ・ 「分かりましたか?」と言葉で確認するだけ。



- 子どもに問い返しながらか確認する。
→「1%はもとにする量を100としたときの1の割合だね。では、割合0.01のときのもとにする量はいくつかな。」 など
- 例題を出しながら確認する。
→「0.01は1%だね。では、0.3は何%? 0.3は何%?」 など



【習熟の際に留意したいこと】

- ・ 教科書の評価問題の丸付けをするだけ。
- 教科書の評価問題の構成をふまえた指導
→評価問題の大問が分かっていたら、その意図を読み取り、それぞれの内容が理解できるように指導する。
- 理解が曖昧な子を教師が集めて教える。
→他の子どもが学びを進める間に集め、どこまで分かっているか確認しながら教える。
- 早くできる子も「できて暇」とならない工夫
→NEW!GIFU ウェブラーニングに取り組む。
→難易度の高い問題を用意しておく。
→次にどんなことを考えたいか聞く。 など

どうしてこの指導が大切なのかという

「教えること」を子どもに考えさせてしまうと時間が足りなくなることが多いです。

上記の留意点を踏まえながら教え、習熟を図る時間を確保することで、学習内容を確実に身に付けることにつながります。

また、既習内容は「教えてもよいこと」と捉え、既習内容でつまづいている子どもには教え、「本時考えること」にじっくり取り組めるようにしたいです。

本アイデア例関連

▶ 報告書 (小学校算数)
P.81~83 (4)運動調べ



▶ 報告書 (中学校数学)
P.27~29 (4)反比例



小学校算数

授業アイデア例②

中学校数学でも適用可能

教科書等に示されている考え方が子どもたちから全部出てこない時は、あえて教師から提示して、その後の交流を深めましょう。

| | |
|------|------------|
| 学年 | 小学校第5学年 |
| 単元 | 四角形と三角形の面積 |
| 実施時期 | 1月頃 |

第1時 第2時 第3時 第4時 第5時 第6時 第7時 第8時 第9時

単元の中には、複数の考え方を提示して、考えを深める時間が意図的に設定されていることがあります。



過程 学習活動

導入

○問題提示
次の台形の面積を求めましょう。
・面積の公式がないからできない。
・三角形や平行四辺形にすればできる。

○課題 台形の面積の求め方を考えよう。

○個人追究
「本時扱いたい考え方が、A～Cの3つだったとします。」

A **AとBは、子どもから引き出したい。**
→思い付かない子どもには、机間指導で、教科書やノートの既習のページを開かせて、気付かせます。

B **Cは、子どもが思い付くのは難しい。**

C

そこでCの考え方は、無理に子どもから引き出さず、教師が提示して、この後の交流で考えを深めていきます。

○全体交流

解釈 (Cの図を指さして)
・「この図だけ見て、どのように考えたか、説明できる人はいますか。」
・「同じように説明できる人はいますか。」

統合 (A・B・Cの図を指さして)
・「この3つの考え方に共通しているのはどんな考え方ですか。」
・「ようするに、台形のような公式が分からない面積はどうすれば求められるのかな。」

・どの考え方も三角形や平行四辺形にして求めているな。
・面積の求め方が分かっている形に変形しているんだ。

○個別最適な学びの時間

■課題が理解できた子ども
→違う形の台形でも求めることができるのか確かめる活動
→NEW! GIFUウェブラーニングを使ってチャレンジ問題

■つまづいている子ども
→先生と一緒に解決 →仲間の考え方を聞いて解決

展開

終末

教科書の記載で、課題解決に向けて複数の考え方を提示しているような場合など、**他者の考え方にふれ、学習する時間**の提案です。

【教科書の考え方が子どもから出てこない時】

- ・教科書にある考え方は、子どもが全て思い付くようなものばかりとは限りません。
- ・教科書に掲載されている考え方の中には、
 - ▶「容易に思い付く考え方」もあれば、
 - ▶「子どもから引き出すには難しい考え方」もあります。

○指導のポイント

- ・子どもから無理に考えを引き出そうとして時間をかけるよりも、あえて、教師が示し、その後の展開に時間をかけた方が、学びが深まります。

考え方を「どう出るように促すか」よりも、出ている考え方で「どんな学びをするか」

【考え方が出そろったら次は何をするの?】

- ・全体交流で左のような意図的な発問をします。
- ・ここでの発問は、P.4「指導改善のポイント②」の4つの視点を参考にしましょう。

根拠

解釈

統合

発展

他者の考え方を**解釈して自分の言葉で説明**したり、考え方を比較して**共通点や相違点**に気付くようにする指導が大切です。

どうしてこの指導が大切なのか

全国学調の結果から、「筋道を立てて説明すること」や「図形を構成する要素などに着目して、図形の性質や計量について考察すること」に課題があります。

子どもから考え方を無理に引き出そうとして、時間をかけるよりも、図だけを見てどのように考えたのかを解釈したり、自分の言葉で筋道立てて説明したりする指導を継続する方が、思考力・判断力・表現力をより育むことにつながります。

本アイデア例関連

▶ 報告書 (小学校算数)
P.35～57 (2) テープ



▶ 報告書 (中学校数学)
P.62～69 (9) 合同



中学校数学

授業アイデア例③

小学校算数でも適用可能

活用する場面の授業では、課題化まではできるだけ短時間で行い、追究する時間を十分に確保しましょう。

| | |
|------|--------------|
| 学年 | 中学校第2学年 |
| 単元 | データの活用（箱ひげ図） |
| 実施時期 | 2月頃 |

第1時 第2時 第3時 第4時 第5時 第6時 第7時 第8時 第9時

単元最後の時間に、単元で学んだことを最大限に活用して学べる素材が設定されている単元があります。



過程

学習活動

○問題：中学校3校の陸上部の100m走の記録の傾向を調べています。

| 番号 | A中 | B中 | C中 |
|----|------|------|------|
| 1 | 13.5 | 14.5 | 14.6 |
| 2 | 14.9 | 13.1 | 12.1 |
| 3 | 14.7 | 15.4 | 15.4 |
| 4 | 13.4 | 14.1 | 14.4 |
| 5 | 16.8 | 14.6 | 14.5 |
| 6 | 13.6 | 15.1 | 14.8 |
| 7 | 12.6 | 14.3 | 15.3 |
| 8 | 14.8 | 15.5 | 16.2 |
| 9 | 13.3 | 13.3 | 12.2 |
| 10 | 17.3 | | 14.5 |
| 11 | 13.1 | | |

【Mさんの考え】

- ・A中の記録の平均 → 14.4秒
- ・B中の記録の平均 → 14.4秒
- ・C中の記録の平均 → 14.4秒

平均値を比べると、どの中学校も14.4秒で等しいから、傾向もあまり変わらないと思います。

本当かな？調べてみたいな。

○課題：Mさんの考えは正しいと言えるだろうか。

このあとの追究に十分な時間を確保するために、課題化まではできる限り短時間で！

○個人追究

- ・箱ひげ図に表す
- ・ヒストグラムに表す

A中 B中 C中

・（箱ひげ図）箱の大きさはほぼ同じだけど、散らばりが違う
 → B中は、データの散らばりが少ない。
 → A中の箱と中央値が、比較的右よりにある。
 → C中は、箱の位置は同じだけど、ひげが右に伸びている。

「自分で追究を進められない子ども」には、右のような支援を行い、どの子も自分の考えがもてるようにしましょう。

○目的をもった交流

- 箱ひげ図以外の考え方をしている仲間はいかな。
- 同じ箱ひげ図で違う見方をしている仲間と交流しよう。

自由交流であっても、目的をもって交流ができるようにしましょう。

振り返りでは、どの学習内容が活用できて、誰のどんな考え方が、自分の学びとなったか等、単元全体を振り返ることができるようにしましょう。

単元最後の時間など、単元で学んだことを最大限に活用して、自分の考えをつくり、判断したりする授業場面の提案です。

【追究に十分な時間を確保するために】

① 追究の充実に必要な時間を見積もる。

- ・箱ひげ図や表に表す → 10分
- ・傾向を調べて考えを書く → 10分
- ・仲間と交流する → 10分
- ・交流したことを整理する → 10分

これだけで40分間必要なことが分かります。



② 導入に使える時間を算出する。

（時間内で子どもに課題意識をもたせる）

課題提示までに使える時間は「5分」だな。
 → 導入で平均を求める時間は取れない。
 → 架空人物の考え方を示し、「判断をせまる」課題にすれば5分でいけそうだ。
 （他の例：「前時に課題化しておく」「データを共有フォルダに入れて、必要に応じて使う」等）



【追究時は「単元末」を意識した支援を】

① 自分で追究を進められない子どもへの支援

- ・教科書やノートを振り返り気付くように促す。
- ・黒板前等につまずきのある子どもを集め、先生と一緒に考える。

② 自分で追究を進められる子どもへの支援

- ・「他に考えられることはないか」と問い返す。
- ・他者の考えと比較するように促す。

なるほど、これなら、「できなくて進められない子」や「できてしまっただけでそれ以上進めようとしていない子」の学習を改善できそうです。



どうしてこの指導が大切なのかというと

導入をできる限り簡潔に行うことで、50分間（小学校は45分間）という限られた時間を「対話的に学び、自分の言葉で説明しきる活動」に重点を置くことができます。それにより、子どもの「思考力・判断力・表現力」を伸ばすことにつながります。

本アイデア例関連

▶ 報告書（小学校算数）

P.94～96 (4)運動調べ



▶ 報告書（中学校数学）

P.45～52 (7)黄葉日



聞き取りを行う前に、目的や自分の置かれた状況を確認して、課題解決のためのキーワードや手がかりを予測しましょう。

[自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取る力を育成するための学習過程(報告書 P.30)]

【令和5年度全国学力・学習状況調査³(放送問題)】あなたはイングリッシュキャンプに参加しています。これから、2班のリーダーとして明日のバーベキューパーティーについて、説明を聞くところです。

① 音声を聞く目的や自分の置かれた状況などを理解する。

② キーワードや手がかりを予測し、自分事として捉える。

③ 予測したキーワードや手がかりをペアやグループで共有する。

④ 英語の音声を聞く。

⑤ 答えを確認する。

⑥ 原稿を読んで、聞き取った英語や聞き取れなかった英語を確認する。

○ 音声を聞く前に、問題に記載されている場面や状況から、話される会話の内容や表現等を予測する力が高まります。

Have you ever been camping?

Yes. I have been camping three times.

What did you do there?

I enjoyed fishing in the river with my family. We also made curry and rice.

OK. Then you are the leader of group 2, and you will have a barbecue party. Can you guess what words are spoken in this situation?



○ 互いの体験や知っていることなどを交流することで、自分一人では予測できなかったことが見つかります。

○ 交流を英語で行うことで、自分の意見や考え、また、その理由を述べる力が高まります。

Your experience and image of camping will become good hints for this listening. If you come up with more key words, they'll be helpful, too. Can you guess what words are spoken?

I think the key words are vegetables, meat, water, rice, dishes, and knives. Do you have any ideas?

I think the speaker will talk about how to cook curry and rice.

We have to get the information about group 2, so I think another key word is "group 2."



○ リスニングの後は、原稿を見て、予測した内容は当たっていたか、聞き取れなかった単語は何だったかなど、聞き取った内容を文字で確認することで、より確かな理解につながります。

[原稿配付後] Now let's try "finger walking." Please put your finger on the top of the script.

[全員が原稿の先頭を指さしたことを確認して]

Good. Now, please listen again and move your finger according to speed.



When you listened, did you find any difficult words or unknown words? From now, listen again and underline the difficult words with the red pen. ※"difficult"を"important"に変えて、重要な語句に線を引くこともできます。

もっと詳しく知りたい人はこちら！

「報告書」P.30～P.33に、「自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取る力を育成するための学習過程」の具体例が示されています。



中学校英語

授業アイデア例②

読み取りを行う際には、文と文との関係を正確に読み取り、概要や要点を比較・検討するようにしましょう。

[短い文章の概要を捉える力を育成するための学習過程(報告書 P.46)]

【令和5年度全国学力・学習状況調査⁷⁾】

次の英文は、しおりさんが英語の授業で「町の図書館」について書いたものです。

① 文章を読む目的を把握する。

② 文章を読み、main points に線を引く。また、線を引いた箇所やその理由についてペアで話し合う。

③ 段落間の関係を把握し、主な内容を捉える。

④ 概要として提示された複数の英文を読む。

④ 数文の英文で概要を書きまとめる。

⑤ 概要と要点を捉えるための手がかりを必要に応じて確認する。

⑥ 概要としてまとめた英文に情報の不足や偏りがないか検討する。

- 段落内の構成や文と文との関係について考えながら読みだり話し合ったりすることで、正確に読み取る力が高まります。
※ 学習者用デジタル教科書の書き込み機能を活用すると効果的です。



How many paragraphs can you see in this passage?
Yes, there are four.
Now, please read the passage to underline the main point in each paragraph with your digital textbook.

Now, let's share your ideas in your group. While you listen to your friend, underline the main points with the marker on your digital textbook. After listening, let's ask why you chose the sentences as main points.



I think "the library in our town is more creative, too." is the main point of the 1st paragraph. What do you think?

I think so, too. "We not only read books and watch DVDs ..." is just an example, so this sentence is not main.



- 手がかりを指導することで、生徒は、段落内の文の役割、接続表現、語と語の関連などに着目する力が高まります。



I'll tell you four hints to make the outline. First, an outline is usually made up of main points in each paragraph. Second, one paragraph has one main point. Third, the main point is usually in the beginning of the paragraph. Fourth, examples don't become the main point. Does it make sense? Let's talk again with your partner and make the outline with four or five sentences.

もっと詳しく知りたい人はこちら！

「報告書」P.46～P.48に、「短い文章の概要を捉える力を育成するための学習過程」の具体例が示されています。



もっと詳しく知りたい人はこちら！

平成31年度全国学力・学習状況調査 授業アイデア例「書き手の一番伝えたいことを読み取る力を高めよう」にも、書き手の一番伝えたいことを読み取る力を身に付けるための指導事例が示されています。



中学校英語

授業アイデア例③

誰に対して、何のために書くのかを明確にして、書くための「視点」をもつことができるようにしましょう。
子どもが自分の英文の誤りに気付くことができるようにしましょう。

【単元例】「自分の住む地域を紹介する」

※教科書の題材に合わせて、地域の「おすすめスポット」の代わりに、日本の「世界遺産」紹介をすることも考えられます。

① 海外から初めて日本に来る ALTの家族のために、Our Hot Spot Guide を作成することを確認する。

② ALTの家族のニーズに合った場所を紹介するために、ALTにインタビューして情報を収集する。

③ 集めた情報をワークシートに整理する。

④ 整理した情報をもとに、ペアでお互いの考えをやり取りする。

⑤ テーマについて自分の考えを書く。

⑥ ⑤で自分の考えを書いたときの視点を全体で共有する。

もっと詳しく知りたい人はこちら！

○ 「平成 31 年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に関する指導資料(中学校英語)」にも「書くこと」の指導事例が示されています。



○ 子ども同士で英文を添削する指導の工夫については、平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例 P.19～P.20 に詳細が示されています。

○ 文部科学省/mextchannel にも「一貫性」を意識させて指導する授業動画があります。

【授業】

「読むこと」と「書くこと」の領域統合の指導例



Point 1

文章を書く前に、誰に対して、何のために書くのかを明確にして、書くための「視点」をもてるようにします。
※ ALTの家族に対して、そのニーズにあった場所を紹介するために書くことを明確にします。



Why don't you ask our ALT some questions to write a better "Hot Spot Guide"?

OK. Who is coming? Only your parents?



My parents, my elder sister and her two children.

What do you and your family like to do?



My mother and elder sister like shopping. They want to buy something interesting in Japan. We are interested in Japanese culture.

Point 2

子ども同士で英文を添削したり、エラーコレクションコードを付けて返却したりして、子どもが自分の誤りに気付くことができる指導を行うことが大切です。

I introduce [A] because his sister's children are littl. sp

It have a big theme park. They can enjoy playing there. vf

So I think [A] a good prace. ^ sp

| CODE | TYPE OF ERROR | EXAMPLE |
|------|----------------------|--|
| pl | Singular/Plural | I have many book ^{pl} on music. |
| T | Tense | Last week I have ^T been to London. |
| vf | Verb form | I'm liking ^{vf} sushi. |
| WO | Word order | Reading is interesting more than speaking. ^{WO} |
| ^ | Something is missing | He saw the film and [^] very disappointed. |
| / | Not necessary | I don't know anything about of it. |
| WW | Wrong word | He's a very ^{WW} high man. |
| p | Punctuation | I live in Tokyo however I work in Yokohama. ^p |
| prep | Preposition | I live at ^{prep} Tokyo. |
| sp | Spelling | It is necessary to be able to spell. ^{sp} |

※ 例えば、左のような「エラーコレクションコード」を付けて、子どもが書いた英文を返却し、子ども自身が自分の英文の誤りに気付くことができるようにします。

【参考(引用)】

令和元年度 英語教育推進リーダーによる指導力向上研修(中・義)

小学校英語

授業アイデア例

小学校段階の「話すこと」の言語活動においても、正確性につながる指導をしましょう。

小学校段階では、音声での十分な慣れ親しみを前提として、「書くこと」の言語活動に取り組みましょう。

【単元例】小学校 第6学年 Unit4
Summer Vacations in the World (東京書籍)
My Summer Vacation (光村図書)
My summer vacation was great. (啓林館)

① Small Talk を通して、既習表現を繰り返し使用できるようにして、その定着を図る。

② 映像資料を視聴し、登場する人たちが夏休みにどこへ行き、何をしたかを理解する。

③ マッチング・ゲームで場所や食べ物・動作を表す語句や感想を表す表現に慣れ親しむ。

④ 夏休みに行った場所とそこでしたこと、その感想についてペアで話す。
ペアを替えて、複数回対話をする。

⑤ 音声を聞いて繰り返し読んだ後、ワードボックスから言葉を選んで書き写す。

もっと詳しく知りたい人はこちら！

○ 「報告書」P.88～P.89 に、中学校における「発話の正確性を高めるための指導」の具体例が示されています。



○ 「報告書」P.74 コラム⑥【小学校外国語科での学習を踏まえて中学校初期の「書くこと」を指導する】に中学校 1 年生の指導の在り方について示されています。

○ 文部科学省/mextchannel にも音声での十分な慣れ親しみを前提として、「書くこと」に取り組む授業動画があります。

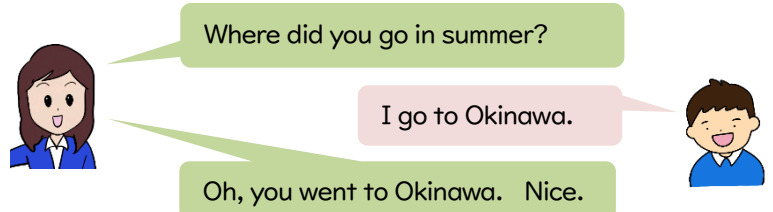
【授業】5 年生 外国語科
「マリアさんに伝えよう、日本の良さを」(第 4 時間目/8 時間)



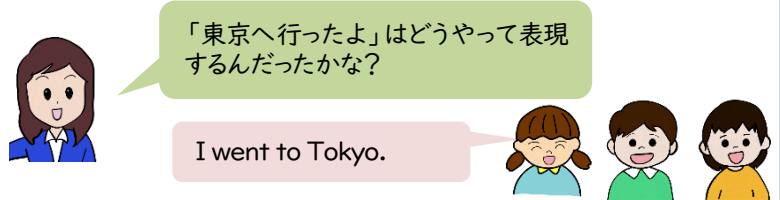
Point 3

「話すこと」の言語活動においても、中学校でより正確に表現する力を高めることができるように、小学校においても正確性につながる指導を行うことが大切です。

(1) 子どもの発話に対して正しい英語で応答しましょう。



※ 子どもが誤りのある英語を話しても、自然な対話を続けながら正しい英語で応答し、気付きを促す指導を大切にしましょう。



※ 言語材料の使用に関して、多くの子どもが同じ間違いをしている場合は、活動の途中で全体指導を行いましょう。

(2) 単語を意識させる活動、語順への気付きを促す活動や英語の文字を「書き写す」活動を通して、「書くこと」に慣れ親しむことができるようにしましょう。

- ① 音声で十分に慣れ親しんだ語句や基本的な表現を書く。
- ② 単元を通じて、毎時間、少しずつ書く。

| 時 | 英文例 |
|-----|---|
| 第1時 | (I went to) the sea. ※the mountain, the river, Tokyo 等の場所 |
| 第2時 | (I went to) the sea. (It was) fun. |
| 第3時 | (I went to) the park. (It was) nice. ※第1時の語句に加えて、exciting, good, great 等の形容詞 |
| 第4時 | (I ate) pizza. (It was) delicious. ※seafood 等の名詞、delicious, sweet 等の形容詞 |
| 第5時 | (I enjoyed) fishing. (It was) exciting. ※swimming 等のしたこと、fun 等の感想 |
| 第8時 | I went to the sea. It was exciting. I enjoyed fishing. It was nice. ※前時までに空所補充の形式で書き写してきた英文を見ながら書き写し、ワークシートに清書する。 |

- ③ 目的意識をもって書く。
- ④ 日本語と外国語(英語)の違いに気付き、語順を意識し語と語の区切りに注意して書く。

※ 英語の語順への意識を高め、語と語の区切り等に注意して英文を書くことができるように指導しましょう。

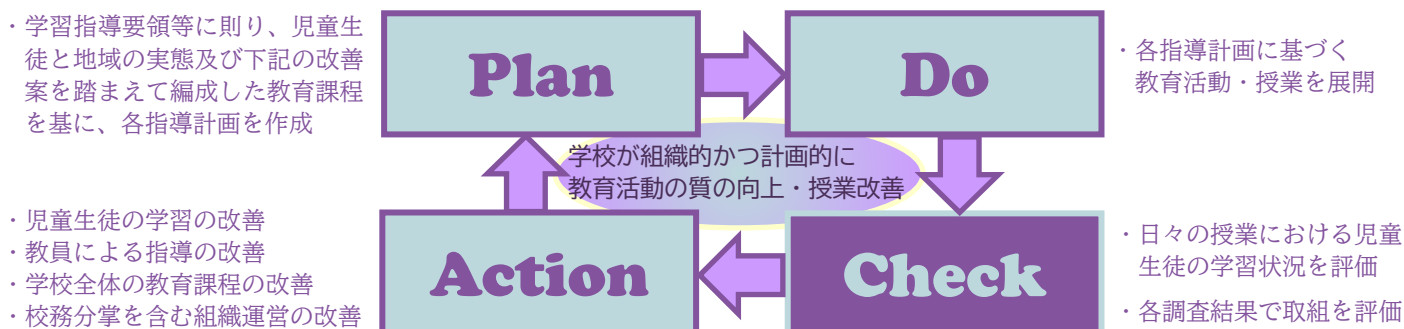
【参考】文部科学省 小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック

この1年間の自校の取組の成果と課題が 質問紙調査の結果に表れています。



昨年度の全国学力・学習状況調査以降の1年間に、自校で力を入れて取り組んできたことは何ですか。その取組の成果は、各教科の正答率の他、児童生徒の質問紙調査の結果にも表れているはずです。自校で力を入れてきた取組の成果が表れるだろう設問は、どれですか。昨年度の割合に比べて何%くらい上昇しているだろうと予想されていましたか。実際の結果は、その予想を上回っていましたか、それとも……。質問紙調査の結果は、今後1年間の指導の内容や方法を改善するための、貴重な評価情報の一つです。

1 教育活動の質の向上や授業改善の成果を評価できる、待望の調査結果です。



Point

👉 信頼度の高いデータです。

質問紙調査の結果は、当該学年児童生徒の学習と生活状況の特徴や傾向を読み取るために役立つデータです。設問は、文部科学省で内容も分量も十分に吟味されたものですし、児童生徒は、十分な時間をかけて真剣に回答しています。また、県や国全体のデータ、昨年度までの自校のデータと比較して検討することもできます。目の前の児童生徒の実際の姿の観察と共に、各調査結果も十分に活用し、これまでの「Do」や「Plan」の評価に大いに役立てましょう。

Point

👉 質問に込められた願いを読み解きましょう。

教科の学力調査と同様に質問紙調査にも、学習指導要領や生徒指導提要等で述べられている、「このような児童生徒を育成したい」という願いが込められている質問が多くあります。毎年継続的に設定されている質問が、目指すべき中心的な方向性を示している一方で、今年度新たに設定された質問は、新たに注目すべき重点が示されたものです。例えば、今年度新たに設定された「(6) 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。」の質問に注目し、自校の教師一人一人が、児童生徒に「分かるまで」教えているかどうか、振り返ってみることが大切です。

Point

👉 データを意図的・選択的に活用しましょう。

小6児童への約60の、中3生徒への約70の質問は、子ども理解のためにはどれも貴重なデータですが、PDCAサイクルの「C」のための評価情報として見るなら、いくつかの特定の質問に注目することが重要です。つまり、これまでに自校で進めてきた取組の成果が、どの質問の回答に表れるかをあらかじめ決め出しておくわけです。それらの回答の「当てはまる」の割合が、昨年度よりも大きくなったのか、期待していた割合より大きかったのか、あるいは県全体の割合と比べてどうだったのかを確認し、それに基づいてこれまでの「Do」や「Plan」を客観的に評価し、「Action」に生かしましょう。

Point

👉 来年度の調査結果をポジティブに待ちましょう。

「Action」によって強化・改善された「新Plan」に基づいて「新Do」が始まります。その成果は、来年度の質問紙調査に必ず反映されます。小6、中3はもちろん、来年度調査対象となる小5、中2を含む全校の児童生徒のために、全職員で情報共有して、学校全体で取り組んでいきましょう。

2 注目していた質問の回答結果から、自校の取組の状況を評価しましょう。



自校で意図的に力を入れて取り組んできたことは何ですか。
その取組の成果が表れるだろうと注目していた質問、表れてほしいと期待していた質問はどれですか。
例えば、次に挙げる質問に表れているはずですが、いかがでしょうか。

① 「主体的な学び」の視点から授業改善に取り組んできた学校

| 校種 | 番号 | 質問事項 | 「1. 当てはまる」と回答した割合【%】 | | | | |
|----|----|---|----------------------|--------------|-------------|-------------|--------------|
| | | | 全国 (今年度) | 岐阜県 (今年度) | 自校 (今年度) | 自校 (昨年度) | 昨年度の 質問番号 |
| 小 | 33 | 5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。 | 30.5 | 31.8 | | | No.39 |
| 中 | 37 | | 30.4 | 39.0 | | | No.39 |

| 校種 | 番号 | 質問事項 | 「1. 当てはまる」と回答した割合【%】 | | | | |
|----|----|---|----------------------|--------------|-------------|-------------|--------------|
| | | | 全国 (今年度) | 岐阜県 (今年度) | 自校 (今年度) | 自校 (昨年度) | 昨年度の 質問番号 |
| 小 | 37 | 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。 | 31.0 | 31.8 | | | No.44 |
| 中 | 41 | | 23.1 | 28.6 | | | No.44 |

② 「対話的な学び」の視点から授業改善に取り組んできた学校

| 校種 | 番号 | 質問事項 | 「1. 当てはまる」と回答した割合【%】 | | | | |
|----|----|--|----------------------|--------------|-------------|-------------|--------------|
| | | | 全国 (今年度) | 岐阜県 (今年度) | 自校 (今年度) | 自校 (昨年度) | 昨年度の 質問番号 |
| 小 | 36 | 学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。 | 38.6 | 38.7 | | | No.43 |
| 中 | 40 | | 34.3 | 39.5 | | | No.43 |

③ 「深い学び」の視点から授業改善に取り組んできた学校

| 校種 | 番号 | 質問事項 | 「1. 当てはまる」と回答した割合【%】 | | | | |
|----|----|---|----------------------|--------------|-------------|-------------|--------------|
| | | | 全国 (今年度) | 岐阜県 (今年度) | 自校 (今年度) | 自校 (昨年度) | 昨年度の 質問番号 |
| 小 | 34 | 5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。 | 28.3 | 27.7 | | | No.40 |
| 中 | 38 | | 22.7 | 28.8 | | | No.40 |

④ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に取り組んできた学校

| 校種 | 番号 | 質問事項 | 「1. 当てはまる」と回答した割合【%】 | | | | |
|----|----|--|----------------------|--------------|-------------|-------------|--------------|
| | | | 全国 (今年度) | 岐阜県 (今年度) | 自校 (今年度) | 自校 (昨年度) | 昨年度の 質問番号 |
| 小 | 35 | 5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。 | 37.3 | 39.6 | | | No.42 |
| 中 | 39 | | 22.6 | 27.5 | | | No.42 |

| 校種 | 番号 | 質問事項 | 「1. 当てはまる」と回答した割合【%】 | | | | |
|----|----|----------------------------|----------------------|--------------|-------------|-------------|--------------|
| | | | 全国 (今年度) | 岐阜県 (今年度) | 自校 (今年度) | 自校 (昨年度) | 昨年度の 質問番号 |
| 小 | 13 | 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。 | 32.0 | 30.4 | | | No.17 |
| 中 | 13 | | 32.2 | 32.7 | | | No.17 |

⑤ 「ICT 機器の効果的な活用」に取り組んできた学校

| 校種 | 番号 | 質問事項 | 「1. 役に立つと思う」と回答した割合【%】 | | | | |
|----|----|---|------------------------|--------------|-------------|-------------|--------------|
| | | | 全国 (今年度) | 岐阜県 (今年度) | 自校 (今年度) | 自校 (昨年度) | 昨年度の 質問番号 |
| 小 | 30 | 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは、勉強の役に立つと思いますか。 | 67.5 | 68.9 | | | No.36 |
| 中 | 34 | | 58.7 | 66.6 | | | No.36 |

⑥ 「指導と評価の一体化」の実現に取り組んできた学校

| 校種 | 番号 | 質問事項 | 「1. 当てはまる」と回答した割合【%】 | | | | |
|----|----|---|----------------------|--------------|-------------|-------------|--------------|
| | | | 全国 (今年度) | 岐阜県 (今年度) | 自校 (今年度) | 自校 (昨年度) | 昨年度の 質問番号 |
| 小 | 6 | 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。 | 60.9 | 64.6 | | | — |
| 中 | 6 | | 43.7 | 52.9 | | | — |

| 校種 | 番号 | 質問事項 | 「1. 当てはまる」と回答した割合【%】 | | | | |
|----|----|------------------------|----------------------|--------------|-------------|-------------|--------------|
| | | | 全国 (今年度) | 岐阜県 (今年度) | 自校 (今年度) | 自校 (昨年度) | 昨年度の 質問番号 |
| 小 | 45 | 国語の授業の内容はよく分かりますか。 | 40.4 | 39.1 | | | No.51 |
| 中 | 49 | | 30.4 | 30.0 | | | No.51 |
| 小 | 53 | 算数【数学】の授業の内容はよく分かりますか。 | 45.2 | 45.6 | | | No.55 |
| 中 | 57 | | 33.9 | 38.3 | | | No.55 |
| 中 | 61 | 英語の授業の内容はよく分かりますか。 | 28.0 | 29.2 | | | — |

⑦ 組織的かつ計画的に「Action → Plan → Do」に取り組んできた全ての学校

| 校種 | 番号 | 質問事項 | 「1. 当てはまる」と回答した割合【%】 | | | | |
|----|----|------------------|----------------------|--------------|-------------|-------------|--------------|
| | | | 全国 (今年度) | 岐阜県 (今年度) | 自校 (今年度) | 自校 (昨年度) | 昨年度の 質問番号 |
| 小 | 43 | 国語の勉強は好きですか。 | 23.8 | 20.3 | | | No.49 |
| 中 | 47 | | 23.6 | 20.3 | | | No.49 |
| 小 | 51 | 算数【数学】の勉強は好きですか。 | 34.8 | 32.5 | | | No.53 |
| 中 | 55 | | 29.1 | 31.3 | | | No.53 |
| 小 | 55 | 英語の勉強は好きですか。 | 38.6 | 35.9 | | | — |
| 中 | 59 | | 25.2 | 24.7 | | | — |

| 校種 | 番号 | 質問事項 | 「1. 当てはまる」と回答した割合【%】 | | | | |
|----|----|---------------------------|----------------------|--------------|-------------|-------------|--------------|
| | | | 全国 (今年度) | 岐阜県 (今年度) | 自校 (今年度) | 自校 (昨年度) | 昨年度の 質問番号 |
| 小 | 38 | 授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか。 | 39.0 | 35.8 | | | — |
| 中 | 42 | | 24.0 | 26.6 | | | — |

| 校種 | 番号 | 質問事項 | 「1. よくしている」と回答した割合【%】 | | | | |
|----|----|--|-----------------------|--------------|-------------|-------------|--------------|
| | | | 全国 (今年度) | 岐阜県 (今年度) | 自校 (今年度) | 自校 (昨年度) | 昨年度の 質問番号 |
| 小 | 16 | 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。（学校の授業の予習や復習を含む。） | 28.7 | 33.4 | | | No.20 |
| 中 | 16 | | 15.3 | 18.7 | | | No.20 |

3 来年度の質問調査※1 に向けて、自校で注目する質問を決め出しましょう。

※1 令和6年度は、1人1台端末を用いて質問に回答します。従来の質問紙調査と区別して「質問調査」と称します。

令和6年度も、4月18日（木）に全国学力・学習状況調査があり、質問調査も実施予定です。


さあ、来年度の質問調査のうち、どの質問に注目しますか。

今年度の実績に基づいて、目標を何%（何人）に設定しますか。

その目標値に近づくため、Action → Plan → Do の流れの中で、何を重視していきますか。

ここでは、思うままに書き出してみよう。

そして、各職員が書き出したことを取りまとめ、今後の学習指導部会、学年部会、教科部会、研究推進委員会等で論点とし、Action → Plan → Do を向上させ、更なる授業改善に学校全体で取り組みましょう。

 質問調査の回答分析には、1)と2)を合わせた「肯定的回答」ではなく、1)の「肯定回答」の割合を用いましょう。

- | |
|--------------------|
| 1) 当てはまる |
| 2) どちらかといえば当てはまる |
| 3) どちらかといえば当てはまらない |
| 4) 当てはまらない |

1)の「肯定回答」の割合を用いましょう。

というのも、2)や3)と回答した児童生徒が1)と回答できるようになる変容をねらって行う指導改善だからです。

4)と回答した児童生徒も同様ですが、実際には個別の特別な援助が必要だと思われます。

| 番号 | 質問事項 | 「1. 当てはまる」の割合／人数 | |
|----|------|------------------|---------|
| | | 自校の → 今年度（実績） | 来年度（目標） |
| | | % | % |
| | | 人 | 人 |



目標値に近づくために、Action → Plan → Do の流れの中で、何を重視しますか。

- <例>
- 学 習 評 価：「単元の指導と評価の計画の作成」 / 「組織的かつ計画的な取組の推進」
 - I C T 活 用：「資質・能力の育成につながる活用」 / 「児童生徒が自発的・選択的に活用」
 - 取組推進の体制：「学年・教科で重点とする取組」 / 「全校共通で重点とする取組」
 - 質問事項を分析：「質問事項を分解して細分化・具体化」 / 「段階的な実施」
 - 他の評価情報：「日々の授業での学習状況の評価」 / 「学校独自の質問紙等による実態把握」
 - 授 業 研 究 会：「研究主題と質問項目との関連性の共通理解」 / 「全校研究会の工夫 ※2」

※2【全校研究会の工夫について】

指導者の先生が、授業参観後の研究会にて最後に指導・助言をするという従来の形ばかりでなく、より学校のニーズが満たされるように、例えば次のように工夫してみても、いかがでしょうか。

- 指導案だけでなく、全校研究会の進行やゴールについても指導者に相談する。場合によっては、指導者が研究会の話題の中からさらに深めたい協議点を提示するなど、コーディネーター役として参加する。
- 授業を撮影し、LIVEで別室の大型モニターに映し出す。参観者は、別室で大型モニターの映像を見ながら、指導者が同時に行う解説を聞く。指導と評価のポイントや改善点、別の発問例や予想される児童生徒の反応例などの解説を聞いた上で、その後の全校研究会に参加する。
- 校内研究主題に基づく研究内容、児童生徒の学び方や学習集団についてだけでなく、自校のPDCAや決め出した質問事項の目標達成のための取組についても、指導者から指導・助言をもらう。

以下の資料を参考にすると、調査結果の分析や具体的な授業改善の手立てが更に明らかになります。

■国関係資料

国立教育政策研究所

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>



○令和5年度 全国学力・学習状況調査 解説資料

・小学校、中学校別冊…国語、算数・数学、英語（中学校）

○令和5年度 全国学力・学習状況調査 報告書

・小学校、中学校別冊…国語、算数・数学、英語（中学校）

・小学校、中学校合冊…質問紙

○令和5年度全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に向けた説明会【説明資料】

※令和4年度以前の関係資料も掲載されています。

■県関係資料

ぎふっこ学び応援サイト 教員用ページ「全国学力・学習状況調査」

<https://www.pref.gifu.lg.jp/site/edu/18428.html>



○指導改善資料

※令和4年度以前の関係資料も掲載されています。

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた
指導改善資料 2023

令和5年9月22日

編集・発行 岐阜県教育委員会 義務教育課
